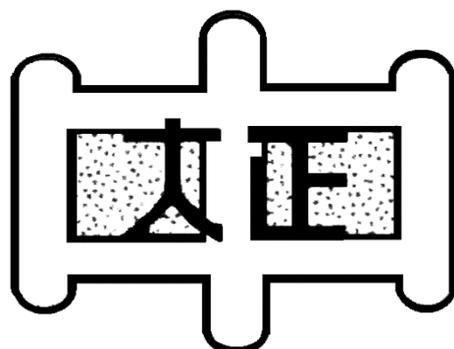


令和7年度

運営に関する計画

(最終評価)



大阪市立大正中央中学校

令和7年度 運営に関する計画

【学校経営の重点】

◇ **自分を創る** ◇

— 自ら学び、鍛え、未来の造り手となる生徒の育成 —

【本市の教育における最重要目標】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

【本校の教育目標】

- ◇ 役立つ人
- ◇ 自ら伸びゆく人
- ◇ 朗らかな人

《具体的方策》

- 1 基礎的・基本的な教育内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む
- 2 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに認めあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む
- 3 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む
- 4 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む
- 5 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域の伝統行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む

《めざす生徒像～3つの“C”》

- ◇ 進んで学ぶ生徒 “ Challenge ”
- ◇ なかよく助け合う生徒 “ Communication ”
- ◇ 明るく元気な生徒 “ Cheerful ”

大阪市立大正中央中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【現状】**

本校では、年度ごとに全国学力・学習状況調査等、各種調査及び学校評価アンケート(保護者・児童)における調査結果の分析を踏まえ、大正中央中学校「学校教育改善アクションプラン」を策定し、教育活動を進めている。今年度は**2つの「きょういく」(共育・響育)**をテーマに、「**確かな学力の育成**」・「**自尊感情・自己有用間の向上**」・「**健康で心豊かな心身の育成**」に取り組んでいく。

(令和7年度「大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン」参照)

令和6年度チャレンジテスト(+1年チャレンジテスト plus)における**本校平均正答率の対大阪市平均比**は、以下の通りであった。

※()は対大阪府平均比

	国語	社会	数学	理科	英語
3年生	0.79 (0.79)	0.71 (0.71)	0.72 (0.71)	0.81 (0.81)	0.74 (0.74)
2年生	0.92 (0.93)	0.81 (0.82)	0.86 (0.87)	0.98 (1.00)	0.86 (0.86)
1年生	0.83 (0.83)	0.71	0.73 (0.74)	0.74	0.77 (0.77)

平均正答率については、**すべての学年で大阪市平均を下回ったが、2年生の国語、理科については、大阪市平均に近づいた。**

また、校内の生徒アンケートにおいて、「**学校の時間以外の家庭学習**」では、1時間以上と回答している生徒の割合は(平日)**3年:76.0% 2年:50.8% 1年:47.8%**と、家庭学習において**学年が下がるにつれて課題が見られた。**

校内の生徒アンケートにおいて自尊感情の項目である、「**あなたは、自分にはよいところがある**」および「**将来の夢や目標を持っている**」において肯定的な回答をしている生徒の割合は、それぞれ**75.3%、61.8%**と、**昨年度から改善された項目もある。**

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、**男子の上体起こしは全国平均を超えている。**しかしながら、男女とも**立ち幅とびは大阪市平均を大きく下回っている。**

【課題】

これまでの調査結果から、本校では**学力向上に大きな課題**がある。この課題に対して、**生徒の読解力向上**に取り組んでいくとともに、**家庭学習の定着**に努める必要がある。

生徒の体力における課題改善のために、体育の授業の始まりの準備運動を丁寧に行い、継続させることで生徒の柔軟性、瞬発力、体幹を鍛えていくとともに、**普段から運動ができるような環境**を整えていく必要がある。

また、各種アンケート結果から「**生徒の自尊感情・自己有用感**」の項目や、「**学校が楽しい**」の項目が他の項目よりも低いことがわかる。そのため、本校では「**2つのきょういく『共育』(共に学び育む教育)『響育』(生徒の心に響く教育)**」を教育方針として、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度末の校内調査における「いじめは許せないことだと思う」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
→R4 : 84.5% R5 : 83.1% R6 : 87.1% R7 : 83.6%
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和4年度～令和7年度内で前年度より減少させる。
→R4 : 10.4% R5 : 8.3%↓ R6 : 11.1%↑ R7 : 12.3%↑
- ・令和7年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を令和4年度～令和7年度内で前年度より増加させる。
→R4 : 33.3% R5 : 20.0%↓ R6 : 32.0%↑ R7 : 26.3%↓

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・令和7年度の校内調査における「話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。
→R4 : -% R5 : -% R6 : 37.6% R7 : 83.6%
- ・令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、令和4年度に対していずれの学年も0.1ポイント向上させる。
→

	R4	R7
3年生 国語	0.96	1.03 (+0.05)
3年生 数学	0.89	1.01 (+0.12)
2年生 国語	0.84	0.86 (+0.02)
2年生 数学	0.71	0.71 (±0)
1年生 国語	0.87	0.96 (+0.09)
1年生 数学	0.89	0.88 (-0.01)
- ・令和7年度の大阪市英語能力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上にする。
→R4 : 34.4% R5 : 27.7% R6 : 35.5% R7 : 50.0%
- ・令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
→R4 : 51.0% R5 : 48.1% R6 : 52.2% R7 : 52.5%

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
→R4 : — R5 : — R6 : 22.0% R7 : 48.4%
- ・令和7年度内に「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を40%以上にする。
→R4 : 24.14% R5 : 33.33% R6 : 32.29% R7 : 44.44%

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における、「いじめは許せないことだと思う」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
(前年度 87.1%)
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(前年度 11.1%)
- ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(前年度 32.0%)
- ・年度末の校内調査における、「学校の規則や社会のルールを守っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
(前年度 96.6%)
- ・年度末の校内調査における、「自分には良いところがある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
(前年度 75.3%)

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における、「話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を35%以上にする。
(前年度 37.6%)
- ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。
(前年度 35.5%)
- ・年度末の校内調査における、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
(前年度 52.2%)
- ・年度末の校内調査における、「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 平日 52.6% 休日 37.6%)
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における、2種目を大阪市平均以上にする。
(前年度 1種目)
- ・年度末の校内調査における、「毎朝、朝食を食べている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
(前年度 89.3%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
(前年度 22.0%)
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を97%以上にする。(前年度 96.6%)
- ・年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を88%以上にする。(前年度 87.5%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における、「いじめは許せないことだと思う」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
→ **83.6%**
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
→ **12.3%** (前年度 11.1%)
- ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
→ **26.3%** (前年度 32.0%)
- ・年度末の校内調査における、「学校の規則や社会のルールを守っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
→ **96.6%**
- ・年度末の校内調査における、「自分には良いところがある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
→ **73.4%**

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における、「話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を35%以上にする。
→ **21.5%**
- ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
→ **3年生 国語：0.93→1.03 (+0.10) 数学：0.87→1.01 (+0.14)**
2年生 国語：0.83→0.86 (+0.03) 数学：0.74→0.71 (-0.03)
- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。
→ **50.0%**
- ・年度末の校内調査における、「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。
→ **平日 52.5% 休日 42.3%** (前年度 平日 52.6% 休日 37.6%)
- ・年度末の校内調査における、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
→ **52.5%**
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、2種目を大阪市平均以上にする。
→ **男子3種目(「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」「50m走」)**
女子5種目(「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」「上体起こし」「反復横跳び」「立ち幅跳び」) ※男子50m走以外は全国平均も上回った。
- ・年度末の校内調査における、「毎朝、朝食を食べている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
→ **85%**

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、**生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数**が、**年間授業日の50%以上**にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
→ **48.4%**
- ・年次有給休暇を**10日以上取得する教職員の割合を97%以上**にする。
→ **100%**
- ・年度末の校内調査における、「**学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる**」の項目について、**肯定的に回答する保護者の割合を88%以上**にする。
→ **91.0%**

本校では、保護者及び生徒アンケートを対象とした学校評価アンケート結果の分析を踏まえ、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」を策定し、今年度も「**2つのきょういく『共育』（共に学び育む教育）『響育』（生徒の心に響く教育）**」をテーマに、教育活動の向上をめざして取り組みを進めてきた。

【安全・安心な教育の推進】

- ・いじめについては、**生徒の実態に合わせた講話**や**生徒会からの問題提起**を行うことで、生徒にいじめ忌避の意識や態度を醸成することができた。また、教職員にも**いじめ防止研修を実施し、教職員の意識向上を図る**ことで、登校指導や休み時間の見守り、生徒との対話による深い生徒理解に努めることができた。
- ・「**いじめアンケート**」を毎月実施するとともに、「**心の天気**」による情報収集を確実にを行い、いじめの防止や早期発見につなげることができた。また、「**いじめ・不登校対策委員会**」を月1回開催し、各事案について共通理解するとともに、対応について検討することで、**すべてのいじめの疑いのある事案について早期に対応できた**。
- ・今年度の不登校生徒（年間30日欠席）は、25名の生徒が対象として挙げられ、昨年度よりも増加している。一方で、令和5年度より開設した「**ステップ教室**」を利用し、**登校できるようになった生徒も増えている**。引き続き、「ステップ教室」の整備や運営方法の工夫を進めるほか、関係諸機関とも連携しながら、不登校の改善に取り組んでいく。
- ・生徒の規範意識については、**日々の学校生活や各行事における指導**に加え、**生徒会の校則改定の取り組み等**により、高い水準が保たれている。
- ・「**自尊感情・自己有用感**」については、「大正中央 Dream Project」等の取り組みにより少しずつ改善しているが、さらに計画的・系統的な取り組みが必要である。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・各教科授業において**主体的・対話的で深い学びの工夫を進める**とともに、相互授業参観等で指導力の向上を図ってきた。また、**個別指導や放課後学習会等の実施**による自主自律的な学びを促進してきたことが実を結び、大阪市英語力調査及び中学生チャレンジテスト（3年生）における目標については達成できた。引き続き、各教員の指導力や生徒の学習意欲を向上させる取り組みを推進していく。
- ・さらに、「**家庭学習時間**」についても、**1時間以上学習する生徒の割合が休日において向上した**。今後も、学習動画やデジタル教材等の有効活用により、継続的に家庭学習を習慣づけたい。

- ・一方で、探究学習に不可欠な、情報を読み取る力の向上や話し合い活動の充実が必要である。総合的読解力育成カリキュラムや課題解決型学習等に取り組み、深い学びにつなげる学習展開を研究していく。
- ・昨年度の課題を踏まえ、体育授業や体育的行事、部活動等において、**運動に対する日頃からの意識づけ**をしてきたことが功を奏し、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果においては、大阪市平均のみならず全国平均を上回る種目が男女ともに見られた。今後も引き続き、多くの生徒が体を動かすことができるような工夫をしていかなければならない。
- ・健康的な生活習慣の意識づけを目的とした**さまざまな研修や講座の開設**等により、生徒の意識は引き続き高水準を維持することができているが、さらなる健康意識の向上を図るために、保護者との連携を強化していきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICT機器の活用については、**校内研修を実施**するとともに**ICT支援員も活用**するなどした結果、教員のスキルアップが進み、各教科での学習者用端末の活用が進んだ。
- ・「心の天気」についても、日々の入力率を提示し意識の向上を図ることで定着してきた。
- ・教職員の働き方改革については、ここ数年「働き方改革プロジェクト」を中心に進めてきたことが成果として表れている。今年度は、新たに**学期末懇談会の廃止**等の改革に取り組んだことや、**定時退勤申告制度や研修会の実施**により教職員の意識改革も進み、昨年度以上に教職員の超過勤務時間が削減された。
- ・昨年度より実施している「**チーム担任制**」については、ミーティングを重ね成果や課題を振り返りながら取り組む中で、**教員の業務負担の軽減につながっている**。次年度は全学年で「チーム担任制」を実施し、業務負担の軽減のみならず、生徒・保護者の安心感を増やすことができる制度としたい。
- ・保護者への連絡、学年通信等を「ミマモルメ」の連絡機能で配信することにより、**ペーパーレス化が定着**してきた。また、学校ホームページでも日々の教育活動を配信してきたが、さらに家庭・地域と連携できるような工夫を進めていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「いじめは許せないことだと思う」に対して、<u>最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</u> (前年度 87.1%) 年度末の校内調査における、<u>不登校生徒の在籍比率を前年度より減少</u>させる。 (前年度 11.1%) 年度末の校内調査における、<u>前年度不登校生徒の改善の割合を増加</u>させる。 (前年度 32.0%) 年度末の校内調査における、「学校の規則や社会のルールを守っている」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</u> (前年度 96.6%) 年度末の校内調査における、「自分には良いところがある」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。</u> (前年度 75.3%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの防止や早期発見・対応には学校すべての教職員が自らの問題として受け止め、取り組んでいくことが重要と考え、学校全体で生徒観察、定期的にいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、いじめを許さない環境を作る。 不登校生徒について、いじめ・不登校対策委員会等で議論し、具体的な対応策のもと、学年、生活指導部を軸とし、外部機関とも連携し組織的な対応に取り組む。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「いじめは許せないことだと思う」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (前年度 87.1%) 年度末の校内調査における、<u>前年度不登校生徒の改善の割合を増加</u>させる。 (前年度 32.0%) 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活を通して、集団規律の確立を心掛け、あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、生徒の規範意識を高める教育に取り組む。 集団生活における基本的な生活習慣態度を身につけ、ルールを守るとともに、正しい判断と行動ができる生徒を育成する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「学校の規則や社会のルールを守っている」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</u> (前年度 96.6%) 	

<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動全体を通じた道徳教育活動を進め、人権教育、特別活動など、様々な体験を通して、生徒同士が互いの違いを認め合い、高め合う教育を実施する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考えることができている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 71.3%) ・生徒アンケートの「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答している生徒の割合を66.0%以上にする。 (前年度 65.2%) 	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身がかげがえのない存在であると実感できるように、学校教育活動だけではなく家庭・地域等との連携を図り、自尊感情、自己有用感を高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、「自分には良いところがある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 (前年度 75.3%) ・生徒アンケートの「道徳の授業を通して、自分の成長を実感できている」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 89.3%) 	B

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、「いじめは許せないことだと思う」の項目に対して、最も肯定的に回答した生徒の割合は83.6%であり目標をやや下回った。5月には、「いじめについて考える日」を設定して、学級単位でいじめ問題に対して自分たちができることについて考えた。また、月に1度いじめアンケートを実施して、いじめの早期発見につなげることができた。 ・不登校生徒の改善割合は26.3%で前年度の割合を下回り、目標達成とはならなかった。不登校の原因は1つだけでなく複合的である場合がほとんどであり、懇談や教育相談などで生徒の困りを聞き出すことができたが改善には至らず継続指導中である。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、「学校の規則や社会のルールを守っている」の項目に対して、肯定的に回答した生徒の割合は96.6%であり、前年度と同水準の結果となった。学校のルールを守ることによってみんなの自由が守られることや、信頼される人間へと成長できるということを生徒が理解することで、引き続きルールを守れる人間育成へとつなげていく。 	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、「命や人権の大切さについて考えることができている」の項目に対して、最も肯定的に回答した生徒の割合は68.9%であり、前年度よりも2.4%減となった。また、「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」の項目に対して、最も肯定的に回答した生徒の割合は59.3%であり、前年度よりも0.6%減となった。全学年で平和学習を行い、いのちについて考える機会を作ることができたが目標達成には至らなかった。 	

取組内容④【基本的な方向2 **豊かな心の育成** **徳**】

- ・年度末の校内調査における、「自分には良いところがある」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合は**73.4%**であり目標を上回った。また、「道徳の授業を通して、自分の成長を実感できている」において、肯定的に答える生徒の割合は**81.4%**となり、前年度の結果から**8.0%**下回る結果となった。生徒が**成長できている実感**を得られるように観察し、**良い変化に対して声かけ**できたことが要因に挙げられる。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1 **安心・安全な教育環境の実現** **徳**】

- ・次年度も、月に**1度いじめアンケートを実施**することを継続していく。また、「いじめについて考える日」を次年度も設定し、生徒会を中心として**学級単位でいじめ問題に対して自分たちができることについて考える**取り組みを実施していきたい。
- ・不登校については、**本校のSSRであるステップ教室の活用を推進**し、不登校の改善に努めていきたい。**登校できる日数を増やす**だけでなく、**学校が人とつながることができる場所**であり、**将来に向けた練習の場**としての役割を發揮するべきであると考え。生徒の**ペースで生活が送れる**ことへの支援を学校全体で考えていくことを続けていく。

取組内容②【基本的な方向1 **安心・安全な教育環境の実現** **徳**】

- ・次年度も、校則改正の取り組みを通じて**校則を守ることの意義**について、生徒自身が考えるということを大切に指導していきたい。生徒間で気づいた間違いに対して、**生徒同士で注意し合える関係作り**ができるように指導を行う必要もあると感じる。また、生徒自身が、大正中央中学校に対して**帰属意識が高まるような活動**を行うことも重要であったと考えられる。

取組内容③【基本的な方向2 **豊かな心の育成** **徳**】

- ・今後は、2年生が**来年度の修学旅行で平和学習**を行う予定であり、継続的に命や人権について考える機会を作っていく予定である。

取組内容④【基本的な方向2 **豊かな心の育成** **徳**】

- ・**学級での役割や委員会活動等**で責任をもつことと貢献する経験ができる環境作りに取り組む必要がある。また、**生徒の頑張りや努力を見逃さない**ことや、声かけを継続的に行っていけるように**教職員で連携**することも必要であると感じる。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、「話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている」に対して、<u>最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を35%以上</u>にする。(前年度 37.6%) ・中学生チャレンジテストにおける、<u>国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上</u>させる。 ・大阪市英語力調査における、<u>CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上</u>にする。(前年度 35.5%) ・年度末の校内調査における、「<u>学校の時間以外の家庭学習</u>」について、<u>1時間以上の生徒の割合を前年度以上</u>にする。(前年度 平日 52.6% 休日 37.6%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、文理融合的な総合的読解力育成カリキュラムを通したリベラルアーツ教育なども実施して、読み取った情報の要約や考えを形成する学習を行う。 ・課題解決型学習の中で、コミュニケーション活動に取り組み、自分の考えを広めたり、深めたりする学習を行い、思考・判断したことを表現し、それを基に議論する力を養う。 <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における以下の質問に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を目標値以上</u>にする。 ①「情報を正しく読み取って、まとめることができる。また、そこから自分の考えを持つことができる」(目標値 25%以上) ②「話し合い活動で、自分の考えを他の人に説明することができる」(目標値 25%以上) ③「話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている」(目標値 35%以上) <p>※(前年度 ①28.1% ②27.0% ③37.6%)</p>	B

<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動全般において、実用的な文章やトピックを取り上げ、言語活動の充実を図り、問題を読み解く読解力や教材資料に対する情報活用能力を育成する。 ・言語活動・理数教育を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。 ・各教科において小テストや単元テストに取り組み、学習を振り返る機会を短期的にすることで、生徒の学びに向かう姿勢や学習に対する自己調整力を醸成する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。 (前年度 2年：国0.93 数0.87 1年：国0.83 数0.73) 	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での実用ワークやスキルテスト等にC-NETを効率的に活用し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の英語3技能の強化に取り組む。 ・目的・場面・状況に応じた実践的な学習法により、生徒一人ひとりのリーディング・スピーキングの機会を増やす。 ・習熟度別授業を活用し、学習成果を英語表現で表す活動を通し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語4技能の総合的な強化に取り組んでいく。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。 (前年度 35.5%) 	
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を教科ごとに作成し、提供することで、自主学習の習慣を定着させ、自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 平日52.6% 休日37.6%) 	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「<u>情報を正しく読み取って、まとめることができる。また、そこから自分の考えを持つことができる</u>」の項目に対して、最も肯定的に回答した生徒の割合は21.5%、「<u>話し合い活動で、自分の考えを他の人に説明することができる</u>」の項目に対して、最も肯定的に回答した生徒の割合は21.5%、「<u>話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている</u>」の項目に対して、最も肯定的に回答した生徒の割合は28.2%と、すべて目標を達成することができなかった。探究学習の実践を始めたばかりで、教材の充実や指導法の確立が徹底されていない中での結果となるので、今後は、各教科および各学年での系統立てた探究学習の計画と実践が必要である。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の「中学生チャレンジテスト」における各教科正答率の対府比について、3年生は(国語：0.93→1.03、数学：0.87→1.01)、2年生は(国語：0.83→0.86 数学：0.74→0.71)となった。夏季休業期間中における自習室の開放及び個別指導、図書館学習室の 	

利用者の増加など、生徒の学びに向かう姿勢や学習に対する自己調整力の醸成が、進路決定を目前にした3年生には特に効果があったと考えられる。今後も引き続き、生徒の学習意欲を高め、主体的に学習に取り組める環境・指導の工夫に取り組んでいく。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 **知**】

- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は **50.0%**で前年度をかなり大きく上回った。**C-NET** を活用した授業だけでなく、**スピーキングの練習**として帯学習で会話練習を実施し、英語力の上昇に努めた。

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 **知**】

- ・年度末の校内調査における「**学校の時間以外の家庭学習**」について、1時間以上の生徒の割合は平日 **52.5%**、休日 **42.3%**となり、休日において前年度以上となった。**デジタル教材を含む課題を有効活用**したほか**3年生は受験勉強に向けて前向きな姿勢**になったことが結果につながったと考えられる。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 **知**】

- ・総合的読解力育成カリキュラムに則した**探究学習を各教科や行事に取り入れる**。情報の読み取りや活用ができる教材の研究とともに他者の意見を聞き、自己の考えを深める**協働学習の機会**をより一層設ける。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 **知**】

- ・来年度も、**夏季休業期間中における補充学習の実施、図書館学習室の利用推進、探究学習を通じたポータブルスキルの育成**と学習への主体的な意欲・態度を養う機会を継続して設けていく。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 **知**】

- ・4技能の向上に向けて、**C-NET との連携をさらに深め**、より英語力が身につく授業研究をしていく。**英語活用の場面設定を単元目標に織り込み**、英語を身近に感じ、活用できる工夫をしていきたい。

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 **知**】

- ・中だるみの時期である第2学年においての家庭学習の充実だけでなく、**第1学年から家庭学習の習慣**を身につけさせ、継続させることを目的とした課題設定が必要であると考えられる。定期テスト前に限らず、日々の課題として**オンライン学習ツールやワークを活用し**、家庭学習の充実につなげていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。 (前年度 52.2%) ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、2種目を大阪市平均以上にする。 (前年度 1種目) ・年度末の校内調査における、「毎朝、朝食を食べている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 (前年度 89.3%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト、体育的行事（体育大会等）を日頃の体育の授業や部活動での成果を発揮する場としての位置づけ、体育委員会を中心とした主体的活動に取り組む。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、2種目を大阪市平均以上にする。 (前年度 1種目) ・年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。 (前年度 52.2%) 	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教科や総合的な学習、特別活動等を通じて健康に関する指導を実施する。 ・今後も感染症の予防のために日常的な健康指導を実施する。また、薬物乱用防止、環境問題などの課題について、正しい知識を身につける取組をおこなう。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの「自分の健康に気をつけている」において肯定的な回答を前年度より向上させる。 (前年度 84.3%) 	A
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災活動や避難訓練、救命救急講習などを通して、自助・共助・公助を理解し、日常の備えや的確な判断のもと行動できる態度を育成する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考えることができている」において肯定的な回答を前年度より向上させる。 (前年度 99.4%) 	B

<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人ひとりが健康に気をつけるように取り組む。 生徒に健康の大切さを身につけさせるために「保健だより」「食育だより」「給食だより」などの資料を定期的に発行し健康意識を向上させる。 食に関する知識を身につけさせるため、学校給食を生きた教材とし、各教科の関連する教材と連動した指導をおこなう。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「毎朝、朝食を食べている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。(前年度 89.3%) 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、<u>2種目を大阪市平均以上</u>にする。」という目標においては、男女とも「20mシャトルラン」と「ハンドボール投げ」の種目が大阪市平均と全国平均を上回ることができた。また、男子は「50m走」が大阪市平均と同タイム、女子は「上体起こし」「反復横跳び」「立ち幅跳び」の3種目と体力合計が大阪市平均と全国平均を上回る結果となった。運動に対する日頃からの意識づけが高まったからだと考える。また、年度末の校内調査における、「<u>運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き</u>」の項目に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合は52.5%であり、目標を達成することはできなかった。しかしながら、前年度の数値は超えており、肯定的な回答としては80%を超える水準を保つことができているので、体育の授業や各学年の体育的行事の取り組み、運動部活動での指導については一定の成果があると考えられる。 	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「<u>自分の健康に気をつけている</u>」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合は87.6%であり、目標を達成できた。今年度実施した、薬物乱用予防教室（6月）、がん教育講習（11月）、1年生歯と口の健康教室（2月予定）に加えて、学校保健委員会の開催や集会等での養護教諭の健康に関する話を通じて、学校全体として生徒に意識を持たせ続けることができた結果と考える。 	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「<u>命や人権の大切さについて考えることができて</u>いる」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合は97.7%であり、前年度より1.7%下回った。今年度は、避難訓練を2回（6月、12月）、生徒や職員を対象とした救命救急講習会を2回（7月、12月）実施した。以上のような活動を実施することにより、前年度に引き続き高水準を維持することができている。 	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、「<u>毎朝、朝食を食べている</u>」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合は84.7%であり、目標を達成できた。達成できた要因としては、食物アレルギー一教員研修（4月）、2年生食育セミナー「運動と水分補給」（5月）、1年生食育セミナー「運動と食事」（9月）、3年生栄養教諭を招いての食育講座（2月予定）と、全学年において「食」や生活習慣の大切さについて意識させる取り組みが効果的であったからと考える。 	

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向5 **健やかな体の育成** **体**】

- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、2種目を大阪市平均以上にする。」という目標においては、**男女とも2種目で大阪市平均と全国平均より上回る**ことができたので、**次年度も2種目**という目標を掲げたい。男女の体つきの違いや筋力の違いはあるが、**運動に対する日頃からの意識づけ**を今後も行っていく必要がある。
また、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合が目標を達成できなかったため、運動につながる授業だけに頼らず、**各学年での体育的行事**においても目標を達成できるような意識付けをする必要がある。

取組内容②【基本的な方向5 **健やかな体の育成** **体**】

- ・引き続き、各教科や特別活動、集会の時間を通じて健康に関する指導・意識付けを実施していく。さらに、**日常的に継続できる健康指導**を工夫していく必要がある。

取組内容③【基本的な方向5 **健やかな体の育成** **体**】

- ・**生徒向けの救命救急講習会**については、よりたくさんの生徒が経験できるように検討していきたい。また、**教職員については2～3年に一度必ず受講**するように促していく。避難訓練に関しては、内容を固定せずその時に合った内容を**消防署に協力**してもらいながら、**地域も巻き込んで実施**していくことを考える必要がある。

取組内容④【基本的な方向5 **健やかな体の育成** **体**】

- ・各講習は各学年にふさわしい時期や内容を検討しつつ、**学校全体として系統立てて実施**していく。朝食の必要性のみならず、**衛生面に気を付けることの重要性**を鑑みて、**安心・安全な給食運営**のために、今後も給食時の**エプロン・三角巾の着用**を徹底していく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 (前年度 22.0%) ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を97%以上にする。 (前年度 96.6%) ・ 年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を88%以上にする。 (前年度 87.5%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の授業力向上に向けて、学習者用端末を活用するための校内研修を実施し、授業や家庭学習におけるICT機器の補完的活用法を研究する。 ・ ICT機器の整備と効率的な運用を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を88%以上にする。(前年度 87.5%) 	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「働き方改革大正中央2023」を引き続き実践していくことで、教職員の時間外勤務時間の削減に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校ホームページや学年だよりなどを通して、学校の取り組みを保護者・地域へ広く発信していく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者アンケートにおいて「学校は、教育方針や教育活動を、学校ホームページや学年だより等でわかりやすく伝えている」において、最も肯定的な回答を前年度以上にする。 (前年度 46.6%) 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向 6 **教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進** **知**】

- ・年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目に対して、肯定的に回答する保護者の割合は**91.0%**であり高水準の昨年をさらに上回る結果となった。各教科の授業において、**協働学習ツール**等を用いるほか、**長期休業中にはICT機器を活用する課題**を出した。加えて**教職員へのCanva研修**を開くなど、**指導者側のスキルアップ**に努め、総合的な学習の時間の取り組みとして探究学習や進路学習などでICT機器を活用していることが目標達成につながったと考えられる。

取組内容②【基本的な方向 7 **人材の確保・育成としなやかな組織づくり** **管**】

- ・本校の「働き方改革 2023」をもとに、今年度も教職員研修を実施し、教職員が働きやすい環境作りに努めることができた。また、**チーム担任制**についての研修を実施し、チーム担任制についての意思疎通を図ることができた。
- ・ほとんどの教職員が、**年次有給休暇を10日以上取得**することができた。

取組内容③【基本的な方向 9 **家庭・地域等と連携・協働した教育の推進** **管**】

- ・年度末の校内調査における、「学校は、教育方針や教育活動を、学校ホームページや学年だより等でわかりやすく伝えている」の項目に対して、最も肯定的な回答は**45.5%**（肯定回答93.0%）と、昨年度を1.1ポイント下回った。
- ・保護者への連絡、学年通信等を「ミマモルメ」の連絡機能で配信することにより、**ペーパーレス化**は定着してきているが、学校全体の教育活動についての方向性は発信することができていない現状がある。
- ・日々の教育活動を学校ホームページで発信することができた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向 6 **教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進** **知**】

- ・引き続き、長期休業中の課題や各教科の授業、総合的な学習の時間で活用していく。次年度以降は全学年でチーム担任および探究学習の系統立てた実践が予定されているため、**学習者用端末を活用した課題設定**にとどまらず、幅広い活用をしていく必要がある。**ICT機器や学習者用端末を活用した探究学習の実践例を取り上げた研修を開催**するなど教員の授業力向上の場を設けたい。また、授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は11月末時点で、年間授業日の**49%**であり、目標の水準とほぼ変わらない。出席者の使用率は決して低くないが、端末忘れや充電不足などを防ぐように指導を徹底し、積極的な利用ができる習慣を身に付けさせる。

取組内容②【基本的な方向 7 **人材の確保・育成としなやかな組織づくり** **管**】

- ・令和4年度より改革を進めてきた結果、教職員の超過勤務時間の削減に大きく取り組むことができた。また、**定時退勤申告制度**や研修会を実施することで、教職員の意識の改革も行うことができた。次年度も引き続き**学期末懇談会の廃止**等、新たな改革に取り組んでいく。

取組内容③【基本的な方向 9 **家庭・地域等と連携・協働した教育の推進** **管**】

- ・**保護者アンケートの回収率が68.8%**と低く、ICTを活用したオンラインアンケートにおいては、さらに回答率が低くなる状況がある。
- ・保護者の方々に学校教育に関心を持っていただくために、授業参観や各行事等を見直し、気軽に保護者が参観できるような環境づくりを進めていく。